

「生徒の成長と安全・安心で居心地の良い場所づくり」

兵庫県立香住高等学校

教諭 小林 晋輔

1 はじめに

本校は、兵庫県北部に位置し、日本海に面した自然豊かな環境のもと、兵庫県唯一の水産系学科を有する伝統ある高校である。普通科、海洋科学科の生徒たちは、ともに地域に支えられ、地域に育まれながら成長してきた。海洋科学科においては、近年8割以上の生徒が親元を離れての寮生活を行っており、時には情緒が不安定になることもあるが、お互いに支えあいながら成長する姿が印象的である。また、海洋科学科のオーシャンコースでは、大型実習船による1ヶ月以上の長期乗船実習があるなど、特色のある学校である。

生徒指導上の課題は、以前は粗暴な行動や不良行為が多発した時期もあり規範意識の向上を中心に指導を行ってきた。近年では比較的落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができているが、当然のことながら生徒一人ひとりが抱えている課題は異なっており、生徒指導や支援も単一ではない。また、重点的な対応が必要な課題も日々変化している。高校生活は社会に出るための成長の場であると捉えると、指示を受け、行動するのではなく、自ら考え判断し、行動する力を身に付けさせたい。そこで大切にしたいことは、行動の基準は自分にとっての損得ではなく、善悪で判断することだ。

生徒の成長と安全・安心・居心地の良い場所づくりのために、何かあってからの事後指導ではなく、正しい判断ができるための事前指導に重点を置き取り組んでいる。

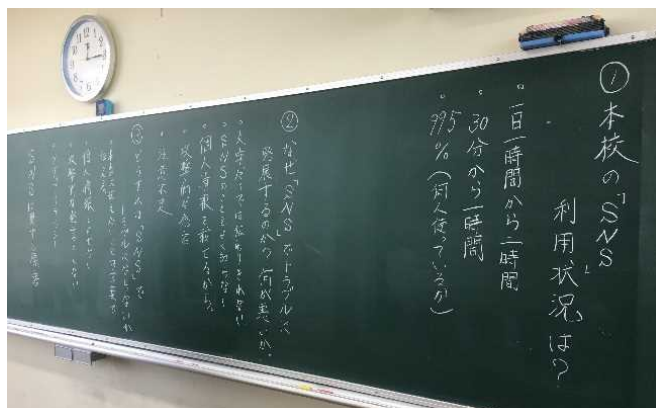
2 マナーアップ週間・集会の取組について

(1) 取組の内容・方法

地域に愛され地域に貢献する学校を目指すため、生徒会を中心に全生徒でマナー向上への取組を10年以上継続している。2週間実施するマナーアップ週間では、日々の活動に加え、マナーアップHRでのクラス討論、それぞれの委員会活動の成果等を発表するマナーアップ集会を実施している。マナー向上が必要だと感じるテーマを毎年設定しており、あいさつや服装、交通マナーなど様々である。「ネットトラブル防止とモラル・マナーの向上」をテーマに設定した年の取組内容を以下に紹介する。

標語の作成

『文字だけで 伝わらないよ その思い』この標語は、「ネットトラブル」についてクラス討議し、作成した標語の最優秀作品である。クラス討議は、自分たちが感じている違和感や改善点を見つめなおし、大人から言われて渋々行動するよりも、自らが感じ、自発的に考えて行動できるようなきっかけづくりの場にもなっている。



マナーアップクラス討議

校内アンケート

自分たちの実情を知ることがを目的に校内アンケート調査を実施している。過去のアンケート結果と比較でき、スマホの所持開始時期は年々若年化し、活用しているアプリ等も数年間で大きく変わっていた。特徴的なアンケート結果は以下の通りである。

- ・フィルタリング実施率：40%以下（実施しているかどうかわからない生徒も多数）
- ・アプリで知り合った人と実際に会った：10%程度
- ・自転車のスマホ操作運転やイヤホン運転でのヒヤリ、ハット経験：40%程度

など、大きな事件や事故に繋がる要素が内在していることが分かる。以前、新聞報道によればSNS上で知り合った複数の人に対する遺体遺棄事件が発生したことがあった。その中には高校生も含まれていた。相手の正体が分からないまま繋がってしまう危険性、SNSでしか助けを求めたり自分を出せない生徒がいること、希薄になりつつあると言われていくリアルな人間関係などの課題を理解し、家庭と連携しながらしっかりとサポートしていく必要性を感じた。

マナーアップ宣言

生徒一人ひとりに対して本校生としての自覚と誇りを持たせ、自分もこの活動の主役の一人であると感じて欲しい。そのため、以下のような「マナーアップ宣言」を集会にあわせて行っている。

香住高校マナーアップ宣言

私たち香住高校はマナーアップに対する取組を10年以上継続しています。今年もマナーアップ週間を通してさらにレベルアップしたマナーアップを目指しています。地域に信頼される香住高校生として、誇りと自覚、そして自信さらに責任を持って次のことを宣言します。

- 一つ、私たち香住高校生は、自信を持って香住高校の制服を着こなし、さわやかな服装・頭髪・身だしなみをします。
- 一つ、私たち香住高校生は、命を大切にするとともに、いつも友達や相手の気持ちを考え、いじめは絶対に許しません。
- 一つ、私たち香住高校生は、交通ルールを守り、自転車通学、列車通学のマナーアップに努めます。
- 一つ、私たち香住高校生は、誰にでも大きな声でさわやかに、元気よくあいさつをします。
- 一つ、私たち香住高校生は、香住高校の美化に取り組むだけでなく地域の美化にも積極的に取り組みます。

以上、ここに私たち香住高校全校生でマナーアップに取り組むことを宣言します。

香住高等学校全校生一同

(2) 取組の成果

自分自身を振り返るきっかけとしての取組を通して、規範意識を高めることにより、生徒にとって学校がより安心・安全・居心地のよい場所となると同時に地域に対するPRにも繋がっている。さらに、ややもすると「自分には関係ない」「自分だけは大丈夫」といった安易な考えに陥りがちである生徒のために、関係機関との連携を密にし、マナーアップ集会に合わせて外部講師を招いた情報教育講演会等を行うことにより、高校生を取り巻く危険性についてしっかりと向き合うことができるようになってきた。

また、自分達が行っている委員会活動の内容をしっかりと全校生に伝える場としての位置づけでもあり、自尊感情や自己有用感を育む場として活用している。

3 自転車免許制度の導入について

(1) 取組の内容・方法

近年、高校生以下に対する賠償責任を課す交通事故裁判の判例があり、高校生は「賠償能力」は無くとも「責任能力」はあるということを問われる時代になった。ところが、スマホ等を操作しながらの「ながら運転」や音楽を聴きながら危険状況に気がつきにくくなる「イヤホン運転」など、自転車の並進や飛び出しと同様に危険を感じる指摘や苦情がある。高校生が被害者にも加害者にもならないために「安全は全てに優先する」という意識を高め、自転車を運転することで発生する責任について考える機会を持ち、交通ルールの順守やマナーの向上が必要である。さらに、危険や事故に関する当事者意識の欠如を無くし、命の尊さや事故の責任について考えさせ、安全運転指導の充実を図るため「自転車免許」制度を導入した。

自転車運転免許制度の実施形態

自転車免許は、第1学年を対象とし、3つの要件（学科講習受講、実技講習受講、学科試験合格）をクリアしたのに対して学校として発行している。講習は例年6月頃に実施し、1学期中に全員が取得するように指導している。

ア．学科講習…美方警察交通課による50分間の安全講習

自転車を取り巻く環境、事故状況、道路交通法、乗り方、整備と積載物、事故判例と賠償、交差点や踏切の通行、事故時の対応等

イ．実技講習…香住自動車教習所による50分間の実技講習

実際の道路走行(坂道、交差点、駐車車両の側方通過等)
運転技術の確認(クランク、スラローム、片手運転の危険性等)

ウ．学科試験 50問(×問題)35問以上の正答で合格

不合格者は、合格するまで追考査の実施

エ．欠席等で受講できない生徒は、別途補習の実施



実技講習・学科講習

(2) 取組の成果

数値的な比較は難しいが、少なくとも生徒の安全に対する意識は高まっており、本校生徒の自転車による重大事故は、本制度の導入後は発生していない。現在では、二人乗りや傘さし運転をする生徒の姿はほとんど見られない。何かあってから取り組むのではなく、事故の未然防止の観点からも今後とも本制度は継続する。また、通学自転車及び寮生活に使用する全ての自転車は、年度当初に職員による点検(ライト、ブレーキ、雨合羽の所有)を行い、整備不良は危険であると認識させ修理させている。

4 担任以外の教員による生徒面談の実施について

(1) 取組の内容・方法

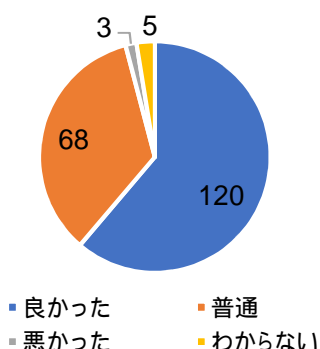
本校では、校内いじめアンケートに真剣に取り組む姿勢づくりを継続させ、いじめの兆候を未然に把握し、いじめに至る前の指導を重視している。本校のいじめ認知の大部分はいじめアンケートによるもので、対応が後手に回る可能性がある。そこで普段から生徒と教員間の信頼関係の構築を行い、些細なことでも相談しやすい環境づくりを進めるた

め、担任以外による生徒面談を実施した。

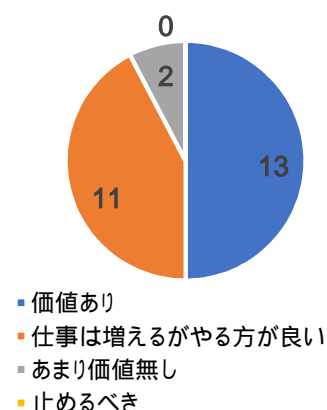
実施方法

事前に生徒から希望する面談教員や内容を調査し、1人10分程度で実施した。それらの面談結果をデータにまとめ、クラス担任や教科担当、部活動顧問を中心に情報共有した。また、生徒、教員からの事後アンケートをとり「面談の価値」「実施時間」「実施形態」等をまとめ、今後の効果的な実施についての検討を行った。

生徒の感想(実施について)



教員の感想(実施について)



(2) 取組の成果

事後アンケートの結果、生徒側は様々な相談ができたり、初めて話ができ良かったという感想が多かった。教員側も、授業や部活動で接しない生徒ともコミュニケーションをとることができ実施の有効性を感じている。

また継続的に CoCoLo-34 の全校生へのアンケートを実施しており、分析をしっかりと行うことで各クラス・学年・科の特徴や課題等を生徒指導部でまとめ、それらを各学年やクラスへ報告し、クラス運営に役立てている。資質・能力の特徴には大きなクラス差が見られ、類似した集団として捉えることはできない。強みとして伸ばしたい資質・能力と課題となる資質・能力をそれぞれ適切に見極め、継続的に対応していく。年度ごとの変化を比較すると徐々にバランスが良くなり、資質や能力が育まれている様子が伺える。

面談やアンケート結果の情報を有効に活用し、多面的な生徒理解に努めている。

5 課題及び今後の取組の方向

これらの取組や成果は一朝一夕でのものではなく、多くの協力や助言、支えの中で実施することができたものである。また、時代とともに考え方や感覚も変化していることに敏感に対応していくことが必要である。「インスタ映え」という言葉が少し前に流行したが Instagramとは、画像共有サービスのアプリの名称である。高校生ともなれば、撮影した画像を手軽に加工して共有し、我々よりも詳しく、有意義に活用している。日々進化するスマホ・ITの世界に、教員や保護者がついていけなくなっていると懸念する。そのような世界でのトラブルは、理解と対策が後手にまわってしまいがちであるが、生徒指導の根本は生徒自身が正しく理解し、判断し、行動できるようになることである。新しいアプリが今後開発され、それが世間で広がったとしても、ルールやマナー、モラルを守る意識を持たせれば問題で困ることは多くないはずである。そのためにも規範意識を育て、正しい情報を提供していくことが学校の役割の1つであると考えます。